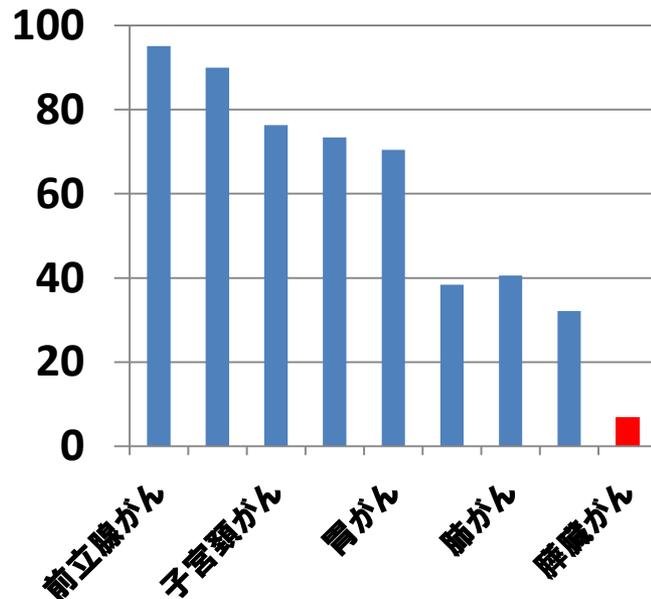


# NHK総合テレビ【番組名】ためしてガッテン 『早く！すい臓がん発見 自己判定ガイド初公開』

## 5年生存率



全がん協 2001-2003症例  
HPデータより作図

## 膵臓がんについて

膵臓がんは、早期発見が極めて難しいがんです。見つかった時にはすでに進行しているケースが多く、5年で9割以上の人が命を落としています。また、がん死亡数では、一昨年、肝臓がんを抜いて4位に上昇しています。但し、早期発見できた例では、治療成績は良好です。

早期発見が困難な理由は、検診や人間ドックの腹部検査で使用される「超音波(エコー)」には“空気を通りにくい”という弱点があるからです。すい臓の周囲には空気をたくさん含む胃や腸が位置しているため、超音波検査では、膵臓の一部しか見えません。

直径2cm以下の早期段階でのがん発見率はわずか**4.1%**とされています。(日本膵臓学会調べ)

大阪府立成人病センターでは、井岡・片山先生達のグループがミルクティーを用いた膵臓超音波検査の新しい取り組みを行っており、それによって膵臓がん早期発見に威力を発揮する成果を得ました。この取り組みが、この度(2015年5月20日)、NHKの「ためしてガッテン」で放映され大きな反響を呼びました



膵がんセンター  
副センター長 片山和宏



膵がんセンター  
内科系部門長 井岡達也

早期の膵臓がんのサインの一つに、「**さしたる理由も無いのに、血糖値が上昇すること**」があります。一般的に血糖値の急上昇は、「不摂生」「ストレス」「遺伝」によって起きます。そのため、それらの覚えがないのに「空腹時血糖」「尿糖」「ヘモグロビンエーワンシー(HbA1c)」などが前回の結果と比べて急上昇したときは注意が必要です。

お近くの先生に、膵臓の検査(血液検査、超音波検査など)を相談してみてください。膵臓にのう胞がある、膵臓の血液検査に異常があるなどの場合には、**病診連携**を通して、紹介して頂ければ、当院で精密検査を実施します。